

四つの展開 1969-2024

田崎謙一 展

2024. 9/1(日)~9/30(月)

● 絵画ホール・松島正幸記念館 1F全室

開館 10:00~18:00 木曜日 13:30~18:00 休館 水曜日 祝日「年末年始」

岩見沢市7条西1丁目1 tel / Fax 0126-23-8700

JR岩見沢駅より約1.2km(徒歩15分)中央バス「6条通」下車徒歩2~3分

2024.10/2(水)~14(月)

● アートホール東洲館

開館 10:00~18:00 休館 毎月曜日

深川市1条9番19号 経済センター2F tel 0164-26-0026

特別企画

- 9/7(土) 14:00~ **二胡とソプラノ** 遠山夕希子(二胡) 中田友紀(ソプラノ) 井内京子(ピアノ)
- 9/21(土) 14:00~ **田崎謙一 ギャラリートーク**
- 9/28(土) 14:00~ **秋の土音~オカリナの響き** 斉藤かすみ(オカリナ) 岡部綾乃(ピアノ)
13:00~16:00 松島カフェ



普賢延命菩薩図 1978

田崎 謙一 (1949~)

Kenichi Tasaki



作品について

絵の道に進むことに迷いながら上京し、東京の喧騒と多くの刺激に驚き困惑しながら潰えぬ夢を追いかけていた二十歳の頃を昨日のことに思い出します。挫折を繰り返しながらもここまで筆を折ることなく描き続けてきた自分の軌跡を振り返り、最後のわがままを試みることにしました。55年間の作品を年代別に眺めると、スタイルが大きく変化した時期に合わせて「四つの展開1969-2024」とタイトルをつけました。仏像の図像学(iconography)に興味を持ちその形態を模した生身の人物表現を試みた70年代、コンピューターが急速に発達しデジタル化の波が人々を侵食し翻弄し始める状況をテーマにした90年代、97年にイギリスでクローン羊のドリーが誕生する。人への応用が可能とされる時代がきてしまい、clonebabyシリーズのきっかけとなりました。そして2020年にコロナウィルスが世界中に蔓延し、コロナがもたらした副次的な様々な事象も含め未来への危うさを暗示させます。この数年のatmospherシリーズのテーマとなります。全ての作品に通底しているのは私の感じるその折々の時代の空気感を表現することを強く意識して画面に向かい続けてきました。テーマを消化しきれないままの未完な作品も多々ありますが、その時の精一杯の力量であったと思います。

北海道網走市宇卯原内に生まれる。道立江別高校を卒業後絵の道に方向を定め上京、アルバイト生活しながら独学で学ぶ。独立展に出品、その後全道展にも出品。16年間東京に在住後生活の場を北海道に移す。全道展を中心に毎年発表。全道展の7人の仲間と権展を結成、現在に至る。

1979 全道美術協会賞、田辺三重松賞

1995 全道美術協会会員

個展 東京資生堂ギャラリー(78)

札幌時計台ギャラリー(76・83) 他

